

雨よけほうれんそうの「とろけ」発生の要因と対策

【1 成果概要】

- 雨よけほうれんそうの「とろけ」の発生要因は
- 高温での保管
 - 株が細い（草丈はあるが、葉数が少なく、株重も小さいもの）
 - 調製不足（子葉、本葉1,2枚目の混入）
 - 傷（葉身の破れや葉柄の折れ）
- などがあり、これらを防ぐことが対策となる。

【2 効果】

本県産雨よけほうれんそうの「とろけ」発生リスクの低減

【3 留意事項】

雨よけほうれんそうの「とろけ」は、主に葉柄基部や葉身が出荷以後に水浸状となることをいう。

【4 適応対象】

- 1 地帯 県下全域
- 2 対象者 雨よけほうれんそう生産者及び出荷業者

表 雨よけほうれんそうの「とろけ」発生の要因と対策

| 要因 | 対策 |
|---------------------|--------------------------|
| 収穫後の温度管理 | 収穫後は出来るだけ0～5℃程度で保管・流通する。 |
| 株が細い | 徒長させない。葉数を確保し、株重を充実させる。 |
| 調製不足（子葉、本葉1,2枚目の混入） | 子葉、本葉1,2枚目は確実に除去する。 |
| 傷（葉身の破れや葉柄の折れ） | 傷がつかないように取り扱いをする。 |



写真は試験的に雨よけほうれんそうの子葉・本葉1,2枚目を残したもの（左）と傷をつけたもの（右）の「とろけ」発生の様子です。

子葉・本葉1,2枚目はトロトロにとろけてしまうことや、傷をつけたところから「とろけ」ていく様子が見てとれます。